

## (9) 玉瀧神社 (たまたきじんじや)

住 所：三重県伊賀市玉瀧7607  
TEL:0595-42-1755

訪問日：2013年7月10日

主祭人：健速須佐之男命

祭 神：大山咋神、大山祇命、天忍日命、伊邪那岐命、速玉男命、大國主命、  
宇迦之御魂神、大彦命、火之加具土命、應神天皇、蛭子命、大日靈貴命、  
菅原道真、天兒屋根命、菊理比咩



石橋と石柱



参道の階段



鳥居



本殿

由緒：当社はかつては豊田神社または祇園社とも称し、勧請は「准后伊賀記」「伊水温故」などの記録から延喜3年(903年)に播磨国姫路の北方の廣峰神社より勧請し祀られたとされている。また天正伊賀乱では兵火に会い、また、1775年2月16日の別当普賢院よりの出火延焼にて本殿、拝殿、神輿庫などが焼失したが、明治42年に再興された。明治43年玉瀧・内保地区に点在する津島神社、醍醐社、鈴鹿神社、日吉神社、愛宕神社、山神社、八幡社、秋葉神社、宇都可神社などの27社を合祀し、明治41年2月6日に玉瀧神社と改称した。

石橋を渡り、石灯籠を抜け、木造の両部鳥居をくぐると、長い石段がある。石段の両側にはスギやシラカシの大木があり鬱蒼としている。石造りの靖国鳥居をくぐると、境内広場の向こうに十数段の石段があり、少し高まったところに入母屋造の拝殿と樹齢530年のスギそれに注連縄を張った御神木のクスノキが見える。本殿は6本の鯉木と内削ぎの千木をのせた神明造で、神楽殿や神輿殿がある。その他境内のまわりや参道にはクロマツ、ソメイヨシノ、ヤブツバキ、ヤマウルシ、アラカシ、ヒノキ、イヌマキ、テイカカズラ、サルトリイバラ、アカガシなどがみられる。当社の手水舎には南北朝時代に行われた湯屋信仰の名残の石風呂が手水鉢として使われている。これは全国で六十数基確認されている石造湯槽のうち、最大のものでされており、当社の宝物であり、町指定文化財になっている。

祭祀は元旦祭(1月1日、厄除祭(2月大一日曜日)、紀元祭(2月11日)、祈年祭(2月24日)、例大祭(4月6日)、神幸祭(午前5時)、村祈祷(6月最終日曜日)、大拔式(6月30日)、祇園祭(7月13日)、新嘗祭(11月24日)、七五三詣(11月中)、大麻領布祭(12月第2日曜日)、大拔式(12月31日)、除夜祭(12月31日)、初老者祈願祭(12月31日)などがある。例大祭での神輿行列は宮司を先頭に、子ども神輿や大人神輿、天狗、獅子、赤鬼と青鬼などの行列がお旅所の宇都可神社から約2.5キロ離れた玉瀧神社をめざし、地区内を練り歩く。